

第5期中間目標（案）用語解説

【地域医療構想】

病床の機能分化・連携を進めるために、医療機能ごとに2025年の医療需要を踏まえた必要病床数を推計し定めるもの。県単位で「地域医療構想」を策定する。

2040年頃に向けて、今後の医療をとりまく状況と課題に対する、新たな地域医療構想に関する制度改正について検討が行われている。

【地域包括ケアシステム】

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、医療・介護・住まい・生活支援・予防など地域の包括的な支援・サービスを一体的に提供する体制。

【臨床指標】

臨床指標は、医療の質を具体的な数値として示したもので、これにより医療の質を客観的に評価することが可能となるので、最近では質（評価）指標という用語もよく使われる。

医療の質とは、施設、医療機器、医療スタッフの種類数や実際に行われた診療行為・看護ケアの種類数、行われた医療の結果（治療成績など）などで示される場合が多い。

【地域がん診療連携拠点病院】

専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供などの役割を担う病院として、厚生労働大臣が適当と認め、指定した病院のこと。

【災害拠点病院】

緊急事態に24時間対応し、災害発生時に被災地内の重症の傷病者を受け入れ、また、搬送し、医師団を派遣するなど、地域の医療活動の中心となる機能を備えた病院のこと。

【地域医療支援病院】

地域医療を担う「かかりつけ医」等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有する病院として、都道府県知事が承認する病院のこと。

【経営マネジメント】

組織（会社など）の目的を能率的に達成するために、組織の維持・発展を図ること。

【病院機能評価】

公益財団法人日本医療機能評価機構が、医療の質と安全の向上を目的として、一定の基準に

に基づき、中立の立場から医療施設を評価したもの。評価を受けるかどうかは病院側の任意であり、審査料を払い基準を満たしているとして認定を受けると5年間有効とされるが、認定の更新には再審査が必要。認定を受けた病院は、広告にその内容を記載することが認められている。

【医療DX】

保健・医療・介護の各段階において発生する情報やデータを、全体最適された基盤（クラウド等）を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えること。

【経常収支比率】

経常収支比率は、総合的な現金収支・資金繰りを見る指標であり、経営活動による収入で、当期の運転資金を賄えているかをチェックする重要な指標。一般的には100%以上が望ましく、85%以下であれば要注意となる。

経常収支比率（%）＝経常収益÷経常費用×100